

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

学校名

【教科:国語】

(1)各教科の定着状況についての概要(領域ごとの正答率と目標値の比較)

【言葉の特徴や使い方に関する事項】	2年:5.9	3年:9.5	4年:▲0.9	5年:5.3	6年:1.2
【情報の扱い方に関する事項】	2年:8.9	3年:13.7	4年:20.6	5年:7.0	6年:1.9
【我が国の言語文化に関する事項】	2年:-	3年:-	4年:6.7	5年:6.0	6年:13.7
【話すこと・聞くこと】	2年:▲0.6	3年:8.1	4年:6.8	5年:8.2	6年:11.1
【書くこと】	2年:11.9	3年:4.7	4年:1.6	5年:5.9	6年:▲8.5
【読むこと】	2年:9.8	3年:8.9	4年:5.0	5年:7.3	6年:8.4

(2)具体的な課題

【課題1:話す力と聞く力】

- 目的を明確にした話し合い活動を行うこと。
- 相手の説明を集中して聞き取り、大切だと思ったことをメモすること。

【課題2:文章を書く力】

- グラフなどの情報から数値の多寡を判断し、その問題点や事象の背景を類推すること。
- 情報から得られた自分の考えを表出するための語彙力の少なさと文章を構成すること。

(3)課題の原因として考えられること

【課題1:話す力と聞く力】

- 語彙や表現方法の習得、および自分の考えを順序立てて述べる力が不十分であること。
- 聞き手として、話の要点を捉えたり意味を理解したりする力が不十分であること。

【課題2:文章を書く力】

- 文章を構成する要素である「いつ」「どこで」「誰が」「どうした」を書いたり、問われていることに対して、情報を取り出し正確に書いたりする力が不十分であること。
- 作文に取り組もうとする意欲が不十分であること。

(4)課題解決のための方策(取組指標)

【課題1について】

- 読書活動を十分に取り入れ、多くの語彙や表現に触れさせる。自分の考えを伝える活動では、必要に応じて表現方法の模範を示した上で、話す前に考えを整理する時間を確保する。
- 聞く前に「何を聞くのか」「一番大事なことは何か」などを意識させ、要点整理の習慣をつけさせる。

【課題2について】

- 毎月初めの週末に「テーマ作文」に取り組ませる。教員がその週のうちに添削する。構成を考えながら文章を書いたり、内容の中心を明確にして、事実や自分の考えを文章に書いたりする活動を十分に取り入れる。
- 授業の終わりに、各学年・各教科に応じたポイントを提示した上で、学習感想を書く活動に取り組ませる。
- できた工夫を具体的に賞賛したり、友達同士で認め合う活動を取り入れたりとすることで、自信を高める。

【教科:社会】

(1)各教科の定着状況についての概要(領域ごとの正答率と目標値の比較)

総評として、目標値として比較して4、5、6年とも少し高いか同等である。

4年生

校内平均正答率は68.3%で、区平均69.6%の正答率とほぼ同等程度である。全国平均正答率より2.2%高い。校内平均正答率と目標値64.6%の比較について、基礎・活用、領域、観点は目標値より高い。ただし、解答形式の短答は4.9%、記述は2.2%低い。

基礎・活用の活用は6.6%、観点の思考・判断・表現は6.1%、解答形式の選択は6.3%と著しく目標値より高かった。

単元別に見ると、全てにおいて全国平均よりは高い数値であるが、基礎、地域や市の様子が区平均より正答率より低い傾向があるので理解を進める必要がある。

5年生

校内平均正答率は68.1%で、区平均正答率より1.9%低い。全国平均正答率より1.6%高い。校内平均正答率と目標値の比較について、基礎・活用、領域、観点、解答形式は、全て目標値より高い。特に、領域の都道府県の様子は5.7%、解答形式の短答は7.7%、記述は7.2%と目標値より著しく高かった。

単元別に見ると、全てにおいて全国平均よりは高い数値であるが、区平均と比べると全て低い数値であった。

特に、都道府県の様子、生活環境を整えるが区平均より正答率が低い傾向にあるので理解を進める必要がある。

6年生

校内平均正答率は67.8%で、区平均正答率より12.2%低い。全国平均正答率より0.2%高い。校内平均正答率と目標値の比較について、基礎・活用、解答形式は、高い。領域の農業や水産業は0.4%、産業と情報との関わり方は0.2%、国土の自然環境と国民生活は3.7%、解答形式の短答は0.8%目標値より低かったが、大きな差はないといえる。単元別に見ると、全てにおいて区平均より正答率が低かった。特に、農業や水産業、工業生産、産業と情報との関わり方、国土の自然環境と国民生活は理解を進める必要がある。

(2)具体的な課題

【課題1：グラフや図等の資料の活用に関して】

○4年生では、グラフや図等の資料の読み取りは区平均正答率よりも2%低いこと。

○5年生では、資料の活用に関して、全国平均正答率より0.7%、区平均正答率より6.9%低いこと。

○6年生資料を活用することが区平均正答率より1.7%、記述する回答では区平均正答率より3%低い。資料の活用に関しての力が低いので、問いと資料の関係性を正確に読み取る力が必要であること。

【課題2：解答形式の短答に関して】

○4年生では、解答形式の「短答」において区平均正答率より8.6%低いとともに、目標値より3.7%低い。

○6年生では、解答形式の「短答」において区平均正答率より6.8%低いとともに、目標値より6%低い。

解答形式の短答についての力が低いので問題をしっかり読んで正確に回答する対応が必要であること。

(3)課題の原因として考えられること

【課題1：グラフや図等の資料の読み取りの時間確保が不十分であること】

○表やグラフ、地図などの読み取りの知識・技能が不十分である。また、問題量や資料が多いと、問われたことに必要な資料を正しく選択することができていないこと。

【課題2：解答形式の短答に関して】

○社会科で使われる用語や意味、地名などの基本的な知識が定着していない。また、身に付けた知識を活用したり、結び付けたりすることが不十分なため、深く理解ができていないこと。

(4)課題解決のための方策(取組指標)

【課題1について】

○授業で、グラフや図等の資料を正確に読み取る作業をしっかりとする。まずは、表題に注目する、グラフの縦軸と横軸が何を表しているか、右上がりや変化がないなどを理解するために繰り返し練習する機会をもつ。

問いに対して自ら向き合って解決させることで、資料活用や読み取りを進める学習を行う。その上で、小テストや単元テストのテスト後の直して理解を確実にさせたり、フラッシュカードやミライシードなどで、社会科で必要な用語や意味の理解度を図ったりする。

【課題2について】

○地図や資料、グラフの数値を読み取るだけでなく、そこから推測できることや因果関係について考える活動を取り入れていく。その上で、知識を正確にアウトプットするために、短答で回答、長文で記述するなど、知識が正確に回答に結びつく活動を取り入れる。そのためには、社会科の用語の基礎・基本をしっかりと理解できるように繰り返し練習を行う。

【教科:算数】

(1)各教科の定着状況についての概要(領域ごとの正答率と目標値の比較)

〔数と計算〕	2年:6.2	3年:3.8	4年:7.1	5年:1.8	6年:▲1.2
〔図形〕	2年:4.1	3年:3.9	4年:▲4	5年:▲8.1	6年:1.3
〔測定〕	2年:9	3年:5.6	4年:6	5年:3	6年:2.2
〔データの活用〕	2年:9.7	3年:7.3	4年:10.3	5年:0.8	6年:▲5.7

(2)具体的な課題

【課題1:基本的な計算力や技能の定着】

- 基礎的な計算を2段階経る問いを正確に理解すること。
- 図形の定義を理解し、正確に作図すること。

【課題2:資料の読み取りやデータの活用】

- 文章や図を正確に読み取り、それをもとに図示したり立式したりすること。
- 折れ線グラフや帯グラフから必要な情報を読み取り、答えを求めたり、その理由を説明したりすること。

(3)課題の原因として考えられること

【課題1:基礎的な知識や技能の習得が不十分である】

- 繰り上がり、繰り下がり、九九、筆算など基礎計算スキルを十分に習得した上で、分数や小数の手順が複雑な計算スキルを十分に習得すること。
- 図形の定義など理解した上で、定規、三角定規、分度器、コンパスを正しく使用すること。

【課題2:問題文の内容を理解し、求められていることに解答する経験が不十分である】

- 問題の場面を理解し、解決するための図示・立式をすること。
- 円グラフや帯グラフから数値を読み取り、さらに計算して割合を求めるという二段階の問題に対応できていないこと。

(4)課題解決のための方策(取組指標)

【課題1:基礎的な知識や技能の習得が不十分である】

- 学習したことを習得する時間を設ける。
- 正確に使いこなせるように定着する時間を十分にとる。

【課題2:問題文の内容を理解し、求められていることに解答する経験が不十分であること】

- 自分の考えの根拠となっていることを明確にし、それを説明する時間(全体、グループ、ペアなど)を十分にとる。
- 本時の学習の振り返りを言葉で書き、何ができて何が苦手かをメタ認知する時間を十分にとる。

【教科:理科】

(1)各教科の定着状況についての概要(領域ごとの正答率と目標値の比較)

「物質・エネルギー」4年生+2ポイント、5年生同等、6年生-7ポイント

「生命・地球」4年生+4ポイント、5年生-5ポイント、6年生-5ポイントであった。

4年生は、全領域で目標値を上回る、5年生は、「物質・エネルギー」で同等、「生命・地球」で下回る、

6年生は、全領域で下回る結果だった。

(2)具体的な課題

【課題1:基礎的な知識の定着と活用】

○理科で使われる用語やその道具(顕微鏡や虫眼鏡、方位磁石の使い方)の理解が不十分であること。

○既習した学習内容(5年生の発芽条件、メダカの雄雌の見分け方、ふりこの運動条件、6年生の百葉箱の使い方、水の性質について)を知識として定着すること。

【課題2:考えの根拠を適切に表現すること】

○短答や記述回答の正答率が低いこと。

○問題文に合う言葉を選ぶ問題の無回答が多いこと。

(3)課題の原因として考えられること

【課題1:理科で使われる用語やその意味の理解が不十分であること】

○児童は、生活の場面で遭遇する自然の事物・現象に対して学習内容と切り離して考えていること。

○理科で活用している実験道具を操作する時間が不足していること。

○既習の内容を具体的な生活経験の場面で活用することができていないこと。

【課題2:考えたことを文章に表す経験が不十分であること】

○考え方の根拠を適切に表現して説明することを苦手としていること。

(4)課題解決のための方策(取組指標)

【課題1について】

○理科用具(虫めがねや顕微鏡、方位磁針、温度計等)に触れる機会を積極的に増やすこと。

○児童が生活の中で感じた疑問から学習課題を設定し、教科書に示された実験を含めて試行錯誤を行いながら解決する授業づくりを行うこと。

【課題2について】

○毎時間、自分なりの考察、授業で分かったことについて根拠と共に文章に表す活動を毎時間行うこと。

○振り返りを行うことで、学んだことやそこから生活経験に活かせることを考えさせ、文章で書く経験を取り入れること。

【教科:英語】

(1)各教科の定着状況についての概要(領域ごとの正答率と目標値の比較)

目標値と比較し、「聞くこと」6.8 ポイント、「読むこと」8 ポイント、「書くこと」2.4 ポイント上回っている。
全領域で目標値を上回ることができた。

(2)具体的な課題

【課題1:既習表現を活用し、自分の考えを英語で表現する】

○書くことにおいて、既習の語句や表現を活用し、自分の考えや気持ちを目的や場面に応じて英語で表現すること。

(3)課題の原因として考えられること

【課題1:既習表現を活用して書く経験の不足】

○既習の語句や表現を活用しながら、自分の考えや気持ちを英文でまとめて表現する経験が十分ではないこと。

(4)課題解決のための方策(取組指標)

【課題1について】

○既習の語句や表現を繰り返し活用し、自分の考えや気持ちを英文で表現する活動を継続的に取り入れる。